奈良のむかしばなし 21

空を飛んだ倉のお話

――文・山崎 しげ子

信貴山 朝護孫子寺

信貴山のシンボル、巨大な張子の虎と、その向こうは舞台造りの本堂。大晦日から元旦にかけて、地域のゆるキャラ大集合！など、平城遷都1300年祭のオープニングイベントが開催される。

ことし二〇一〇年は、寅の年。寅といえば、寅の寺として有名な信貴山朝護孫子寺。寺伝では、その昔、聖徳太子がこの山で戦勝を祈願するや、毘沙門天を感得したという。その時が奇しくも寅の年、寅の日、寅の刻であった。太子は毘沙門天を祀り、この山を「信ずべき、貴ぶべき山」として信貴山と名づけた。

信貴山といえば、「信貴山縁起」。日本の絵巻物の代表傑作である。寺の中興の祖、命蓮の奇跡譚を描き、「山崎長者(飛倉)の巻」「延喜加持の巻」「尼公の巻」の全三巻。

絵巻の舞台は平安中期。庶民の生活、登場人物の動作や表情が軽妙な筆致で生き生きと描かれている。

京都府の今の大山崎町。ここの裕福な長者のもとに時々不思議な鉢が飛来した。実は、奈良の信貴山から命蓮が法力で飛ばしていたのだ。

ふだんなら、その鉢にお布施のお米を入れると、鉢は勝手に信貴山へ帰るのだが、ある時、長者は鉢を倉の中に入れたまま忘れていた。

すると、さあ、大変。鉢は倉を持ち上げ、空高く飛んでいった。

屋敷は、大騒ぎとなった。長者と男衆らがその倉を必死で追っていくと、信貴山の命蓮の庵室に着いた。長者はおそるおそる「倉を返してくれませんか。中にお米が百俵もつまっているのです」と頼んだ。命蓮も、長者を諌めるのもこれくらいにしようと、米を返すことにした。ただし、「倉は置いておくように」と。

長者らは、はたと困った。大量の米俵をどうやって山中から山崎まで運べばいいのか。命蓮は言った。「鉢に米俵を一つ載せなさい」。

言われた通りにすると、不思議にも、倉から米俵が次々と転がり出て空を飛んでいった。長者は喜び、「こんなことなら、少しは信貴山に残しておけばよかった」と悔いた。

さて、山崎の長者の屋敷。百俵の米俵は、倉の跡にきちんと積み上げられていた。めでたし、めでたし。

信貴山で祀られている毘沙門天は家運隆盛、商売繁盛の仏。寅の年の初詣では、とくに賑わいそうだ。

「信貴山縁起」より山崎長者の巻（国宝）

全3巻のうち、毎年1巻だけの公開だった秘蔵絵巻が12年に1度の寅年の今年、霊宝館で全巻が順次公開される。「山崎長者の巻」は2月1日～16日。

物語の場所を訪れよう

「信貴山朝護孫子寺」へは…

近鉄信貴山下駅下車、バスで約15分。
JR・近鉄王寺駅からタクシーで約13分。

信貴山朝護孫子寺 生駒郡平群町信貴山2280-1
☎0745・72・2277

奈良の魅力映像BOX　信貴山朝護孫子寺　検索